

# 和合

No.143

2021.11.15

題字：三浦修次

## 主な掲載記事

- ・和合の里あれこれ……………2
- ・はやぐおっきぐなれの～！…3
- ・よつぱこ通信……………4
- ・わたしが描く和合の里…………5
- ・わたしから見た和合の里…………5
- ・畑にこんにちは……………6
- ・季節の郷土料理……………6
- ・人生100年時代……………7
- ・わごう駐在所……………7
- ・第3回和合の里フォト  
コンテスト入賞作品…8
- ・和合の里INFORMATION ……10

# 和合の里 あれこれ

## 【古 関 編】

### 古関獅子踊り

古関獅子踊りは約300余年の宝暦年間に悪疫が流行し、人々は神仏に祈りを捧げご加護を願っていた時に「産土の神に“春日の神”を祀り獅子踊りを戸毎に廻って悪疫を退散させよ」とのお告げがありました。そこで隣村の四ヶ村より獅子踊りを習得し、神前及び総氏子を戸毎に踊ったのがはじまりといわれています。

言い伝えによれば、利兵衛が南興屋の某家に奉公に出て、その際に四ヶ村の獅子踊りを習い覚えて村に伝承したといわれています。

町内に伝わる獅子踊りは獅子頭の装飾や幕の模様、獅子唄の節廻し等、細部に違いが見られ、それぞれの獅子踊りの特徴となっています。特に踊りの振りには2つの流れを見ることができます。

1つは四ヶ村を筆頭に、古関、西袋、余目新田のグループ。もう1つは、家根合、吉岡のグループで、この違いは伝来の経路によるものと見られています。前者は四ヶ村と親子関係の獅子郷であり、後者は八色木、小中島（どちらも旧藤島町）から伝来したと考えられています。

四ヶ村系は腰をおろし、身体全体をバネにして、頭を上大きく、長い真白な鼻髭が真っすぐ逆立つほど振りあげ、勇壮で、躍動的な踊り振りをします。

江戸時代から明治時代にかけてはこの獅子郷でも「商売獅子」（※古関では「本舞獅子」）と呼び、自分の村だけでなく、近隣の親戚や知人を頼って踊り、ご祝儀を受け、必要経費の支払いや神社の施設、設備を整えていました。現在はその村の祭典日、または会式の日には踊る「祈禱獅子」がほとんどです。

現在でも、古関獅子踊りは村の祭典日、白山神社に踊りを奉納しています。



### 御神子（みかんこ）

古関では、村の祭典日、白山神社に獅子踊りを奉納していますが、その他に小学5年生から中学3年生までの女子が神社に「浦安の舞」を奉納する「御神子」と呼ばれる神事が伝承されています。

御神子は、白山神社の前宮司伊藤秀光氏が、神社の例祭に雅楽を奉納したいという子どものころからの願いにより実現しました。この願いはなかなか叶いませんでしたが、昭和15年（1940）の皇紀2600年奉祝の「浦安の舞」が宮内省雅楽部により制定され、全国の各神社祭典雅楽と定められたのを機にその思いを実現しようと、東北ではただ1ヶ所、仙台で開かれた浦安の舞の講習会に出席した鶴岡日枝神社の宮司から指導を受け、昭和16年11月23日の新嘗祭で第1回目の楽と舞を奉行了ました。この時は北館神社より扇と鈴を借用しての奉行でしたが、昭和17年8月15日の例祭では49歳厄年祭の方々が舞鈴を1組4個、42歳厄年の方々からは檜扇2扇の奉納があり、もう2扇は神社費で購入し奉行了ました。戦時中と不幸にも伊藤宮司宅が全焼した年だけ、御神子の奉納を休みましたが、現在も古関の女の子たちは、夏休みを返上して練習に励み、伝統を受け継いでいます。



# はやくおっきくなれの～!



ゆうは  
**上野 優葉ちゃん**

(吉方)

令和3年4月18日生まれ

パパ：陽平 ママ：真悠子

①木陰をつくる木の葉のように優しい人になって欲しいと思い名付けました。またお兄ちゃんの名前に「幹」がつくので、幹から枝が伸び葉が出るように2人仲良く育てていってくれたらと思います。

②離乳食が始まりました。初めて口にするモノにも興味津々で前のめりで食べています。

③寝返りを修得したのですぐにうつぶせになってしまいますが、違う部屋にいてもお兄ちゃんが「ひっくり返ったー！」と叫んで教えてくれる事です。

④散歩の時に花壇の花を食べようとして、手や顔を虫に刺されてしまいました。何でも口に持っていくので気を付けなければと思いました。

⑤良く寝て良く食べ、お兄ちゃんと仲良く大きくなってね。

家族みんなを笑顔にしてくれてありがとう。



①愛称が“てんちゃん”となる名前を考えました。みんなから「てんちゃん！」と親しんでもらえる様な、おおらかな子に育ててもらいたいと願いを込めています。

②寝返りをしては近くにある物を必死に取ろうとしています。兄が色々なおもちゃをぼとぼと落としていくので、握ってはくわえて兄に取り返されて、を繰り返して楽しそうです。

③離乳食も始まりいつもニコニコ食べていますが、トマトを食べた時だけすぐくまがい顔をしていました。その後に好きなものを食べてはニコニコして、表情が豊かな子だなと思いました。

④着替えをされていて、つい上の子のノリで立たせようとしてしまい、あれ？立たないと間違えたのを父と母どちらもした事があります。当の本人はとても不思議そうな顔をしていました。



⑤いつもニコニコなてんちゃん。目が合うだけで満面の笑みをみせてくれて、とても癒やされ、パワーをもらってます。これからも元気にのびのびと育てていってね。



てんま  
**佐藤 天真ちゃん**

(南野)

令和3年3月10日生まれ

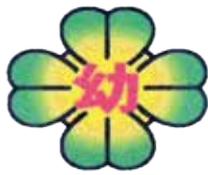
パパ：公希 ママ：真由美

Q1 名前の由来は？ Q2 今一番の興味やはまっていることは？ Q3 最近記憶に残ったエピソードは？

Q4 パパママの失敗談(子育てあるある) Q5 パパママからのメッセージ



余目第四幼稚園



# よつばっこ通信



(聖火台)

一人一人が輝く運動会 ☆ 2021のテーマは…

## よつばオリンピック ☆ 目指せ金メダル!

子ども時代には、その成長発達に合った経験が必要です。第四幼稚園では、日々楽しい遊びを積み重ねて、体を動かすことが大好き! 友達と一緒に頑張るって楽しい! という子どもを育てています。そうして迎えた秋の運動会。今年のテーマは、やっぱりオリンピック! テレビで見たあのカッコいい選手を目指して、いろいろな運動遊びに挑戦してきました。

4歳児には、友達と一緒に体を動かすことや競い合ったりして遊ぶ楽しさを!



踊りだーいすき  
楽しいな♪  
♡



聖火を持って入場行進! カッコいいでしょ!

5歳児には、友達と一緒に思いきり体を動かす心地よさや友達と競い合う楽しさ、友達と力を合わせることの大切さの体験を!  
と考えて職員一同保育に当たってきました。



「高く飛べるよ!  
イエーイ!!」

「先生、わたし、いっぱい走ったら走るの大好きになったよ!」

という子どもの笑顔は、私たち職員へのごほうびだなあとうれしく思います。

よつばオリンピックは大成功! 子ども達は金メダルをもらってニコニコでした。

保護者の皆様にも、我が子の成長が感じられる一日となったようです。

元気いっぱいのよつばっこ! これからも、健やかにぐんぐん伸びて大きくなぁ〜れっ!! (松)



年中・年長児ペアと一緒に競技



「(年長) 伝説のぱんだリレー」

「今度は先生チームと対決したい!」  
…えー!! 負けそう



金メダルゲットしたよ!



## 余目第四小学校6年生 わたしが描く和合の里



長南 蘭美  
【沢新田】

**私**は稲などがきれいな田んぼを見ると、和合の里は自然がきれいだなと思います。和合の里は自然が豊かで、四小のまわりには田んぼがあたり一面に広がっていて、すてきだなと思います。和合の里の自然は、私たちが卒業しても残っていてほしいです。



安藤 駿斗  
【小出新田】

**ぼく**が好きな和合の里は、自然が多くて、生物が多い豊かなところですよ。自然いっぱいところで、友達といっしょにサッカーやドッチボールをすると楽しいです。これからも友達となかよくして、もっと楽しい学校生活を過ごしたいです。



檜山 梨恋  
【西袋】

**わ**たしが描く「和合の里」はみんなやさしくて明るいところです。毎日、私が地域の人の家を通ると、「おはよう。」と言ってくれるのがうれしいです。これからも、みんなや地域の人がやさしくて、明るい「和合の里」にしてほしいです。



渡部 勇真  
【吉方】

**ぼく**が描く和合の里は、にぎやかで楽しいところです。田んぼがあってとても豊かで、生きものもたくさんいます。春になると桜もさいて、植物も増えます。この自然豊かな和合の里をずっと残していきたいと思います。



樋渡 樹理  
【堤新田】

**四**小学区の人たちは、あいさつが自まんです。いつも学校に登校したら大きな声であいさつをしたり、地域の人などに会ったら大きな声であいさつをしたりしていいなあと思いました。これからも元気いっぱいの和合の里になってほしいです。

## わたしから見た 和合の里



庄内町立余目第四小学校  
主事 古川 晶

**余**目第四小学校にきて、6年目になりました。こちらに勤めるまで庄内町にはあまり来たことがなく、道路から地名の呼び方までわからないことばかり……不安な気持ちでいっぱいでしたが、学校へ来ると人懐っこく、たくさん話しかけてくれる子どもたちにはほっとしたことを覚えていきます。

和合の里で育つ四小のみんなには魅力が沢山あります。持久走大会へ向けてミニマラソンを何十周も走ったり、学習発表会があれば休み時間を使って練習したり、何事にも一生懸命に取り組むところ。上学年の子が下学年の子に掃除を教えていたり、具合が悪くて早く帰る子がいれば温かく声をかけてくれたり、やさしい気持ちを持っているところ。それはおうちの方はもちろん、沢山の地域の方々から見守られ、支えられているからこそ、素敵な子どもたちが育っているのだなあと感じています。

また、広々とした田んぼとその先に見える鳥海山、地域の道路沿いに植えられているお花、自然豊かな美しい風景を眺めながらの通勤は日々の癒しです。

これからも和合の里の子どもたちの活躍を楽しみに、事務として少しでも力になりたいと思います。よろしくお願いします。

# 畑にこんにちは!

## 小野寺 鉄雄さん (中野)



秋雲が広がる過ごしやすい日。今回、お邪魔したのは中野の小野寺鉄雄さんの畑です。

畑にはネギやごぼう、長芋、大根、白菜がすくすく成長していました。夏にはトマトやナス、キュウリ、さやえんどうなども植えていて年間で20種類以上の野菜を育

ているそうです。あまり農薬を使わないで育てるため、はじめは病気にかかりやすく、水やりに気を配るなど特に手間がかかるそうで奥様と交代しながら朝と夕方には畑に行き作業をしています。手間をかけた分だけいい野菜ができるので、上手にできたときの嬉しさはひとしおだそうです。

小野寺さんが畑を始めたのは定年を迎えてからで、はじめは失敗があったそうですが、試行錯誤をしてだんだんと上達したそうです。畑をしてよかったことは収穫した野菜をお友達にあげると喜んでくれることや



↑真ん中にごぼう、右側に長芋が植えられています

畑友達との会話が楽しいことだそうです。また、老化防止のためにも畑仕事はいい。と教えていただきました。

畑以外にもハウスでトルコキキョウやストックを栽培し



↑防虫ネットの下には大きな白菜がありました

ていて、栽培したお花を幼稚園にプレゼントしているそうです。また、趣味でウォーキングをしていて、ウォーキング中に友達と会い、会話をするのも楽しみです。畑や花卉栽培、ウォーキングなどを通してたくさんの友達との会話が生きがいだ。と笑顔でお話いただきました。

# 季節の郷土料理



## 大根のお漬物

### ◆材料

- 大根……………1/2本
  - 酢……………小さじ5
  - 塩……………大さじ1
  - 砂糖……………大さじ9
  - 酒……………小さじ1
- } A

### ◆作り方

- 1 Aを袋やタッパーに入れ、かき混ぜる。
- 2 大根の皮をむき、適当な大きさに切る。
- 3 切った大根を1の入れ物にいれ、冷蔵庫で1日～2日寝かせて完成。

### ○ポイント

- お好みで、昆布やゆずの皮、鷹の爪をいれても美味しい。
- 大根のほかにも人参やキュウリと一緒につけても美味しい。

# 人生100年時代

庄内町保健福祉課  
高齢者支援係  
主任 日向 唯



## ～「便利屋わごう」はじまります～

こちらを書かせていただいているのは、まだ残暑厳しい9月下旬、稲刈りも終盤に差し掛かったところ。西日に照らされて黄金に輝く庄内平野の美しさは、ここだけの贅沢な光景だと毎年思います。

今年4月より保健福祉課に異動して参りまして、和合の里を創る会さんにも様々関わらせていただいています。その一つが、10月からお試し期間が始まっている「便利屋わごう」です。少子高齢化が一層進んでいく今後の庄内町において、高齢になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らしていくためには、地域での“お互い様”の助け合いがより重要になってきます。「便利屋わごう」は、地域の中でボランティアとして活動するサポーターを募り、65歳以上の高齢者のみの世帯向けに、暮らしの中のちょっとした手助けをする仕組みです。腰が痛くて掃除機をかけることがつらい、車を運転できないのでスーパーで食材を買ってきてほしい、などの生活支援を行います。チラシでご案内されていると思いますが、どんな内容なのか興味がありましたら、ぜひ和合の里を創る会事務局までお問合せください。「ボランティアとして活躍したい！」というサポーターも大募集です！



庄内警察署  
菅原 直樹  
(第四学区担当)

## わごう駐在所

## ～ 歩行者の交通事故防止 ～

### 秋の交通事故の特徴

日没が早まるこの時期は、夕暮れ時から夜間にかけて交通事故が多発します。中でも、道路を横断中の歩行者に気付かずはねてしまうなど、歩行者との事故が心配されます。

- 1 夕暮れ時に事故に遭わないように歩行者が気をつけるべきこと
  - ・ 外出はなるべく明るい内に済ませるようにして下さい。
  - ・ 夕方以降に外出する際は、明るい色の服を着て出かけるようにして下さい。
  - ・ 夜光反射材の着用も忘れずにお願いします。
- 2 事故を起こさないためにドライバーが注意すべきこと
  - ・ ドライバーは午後4時になったら早めのライト点灯を心掛けましょう。
  - ・ 夜間はハイビームを積極的に活用しましょう。
  - ・ 車のスピードを抑え、歩行者等を見落とさないように注意しましょう。
- 3 自転車にも反射材をつけましょう
  - ・ 自転車もサドルや泥よけ、ハンドルなどに反射シールを貼っていると、ドライバーが気付きやすくなります。
  - ・ ホイール用の反射ステッカーなど自転車用の反射材も種類が豊富にあります。

和合の里の魅力再発見!!

稲種“亀ノ尾”選出者 阿部亀治記念

## 第3回 和合の里 フォトコンテスト 入賞作品

一般47点、小学生8点、総数55点のご応募をいただきました。たくさんの応募ありがとうございました。

### ■一般の部

#### 最優秀賞



「春の散歩道」 富樫 馨 (酒田市)

#### 講評

青空の中、鳥海山と桜をうまく構図に取り入れて、散歩する家族のほのぼのとした感じをうまく表現した作品です。

#### 優秀賞



「田植日和」 荒木 伸彌 (南野)

#### 優秀賞



「冬じたく」 大友 治夫 (本小野方)

#### 優良賞



「小出沼の春」  
吉泉 純生 (久田)

#### 優良賞



「豊作だ 稲刈り 急げ」  
押切 やゑの (西袋)

#### 優良賞



「深秋の朝焼け」  
加藤 隆志 (小出新田)

優良賞



「秋麗の朝」  
加藤 隆志 (小出新田)

優良賞



「放射冷却の朝」  
石崎 幸宏 (狩川)

小学生の部

最優秀賞



「秋花火と実る稲穂」  
加藤 沙季 (小出新田)

講評

稲刈りの時期の晴れた日に小出沼沿いに咲く彼岸花をきれいに入れた作品です。実った稲を収穫する雰囲気もうまく出ていると思います。彼岸花を秋花火と表現したのも写真から伝わってきます。

優秀賞



「満開の雪桜」  
加藤 沙季 (小出新田)

優秀賞



「月山の前をとぶ白鳥たち」  
石崎 朝光 (狩川)

優良賞



「いっぱいさいたスイセンと月山」  
石崎 叶芽 (狩川)

優良賞



「いなほとちょう海山」  
石崎 叶芽 (狩川)

## 余目第四公民館、亀ノ尾の里資料館開館30周年記念事業

10月17日に余目第四公民館、亀ノ尾の里資料館開館30周年記念事業が開催されました。

当日は和合の里振興計画の将来像「歴史と文化の薫りただよ和合の里」の除幕式、(仮)余目第四まちづくりセンターの愛称募集採用作品応募者の表彰式、記念式典、記念講演が行われました。除幕式では庄内町長、和合の里を創る会長、余目第四小学校の児童が曳綱を持ち、幕がおろされました。

(仮)余目第四まちづくりセンターの愛称募集採用作品応募者の表彰式では「和合館」を創出した五十嵐貞雄さん(南野新田)、渡部晃正さん(前田野目)に賞状と記念品が贈呈されました。



## 地域啓発標語が決まりました

余目第四小学校の児童を対象に地域啓発標語の募集を行い、このたび応募総数131点の中から最優秀賞1点、優秀賞5点、佳作3点が選ばれました。結果は下記のとおりです。

最優秀賞	「木の葉の音 心地よい風 ふるさとの あふれる魅力 未来へと」	加藤	沙季	さん(小出新田)
優秀賞	「とびださない いったんとまって みぎひだり」	くどう	りお	さん(古 関)
優秀賞	「なれた道 止まってよく見て 右左」	上林	はると	さん(大真木)
優秀賞	「「おかえりなさい」 まっててくれる 地いきのえがお」	成澤	翔	さん(西 袋)
優秀賞	「あいさつで えがおの花を さかせよう」	安藤	咲和	さん(小出新田)
優秀賞	「守りたい きれいな自然と 未来の笑顔」	樋渡	樹理	さん(堤新田)
佳作	「手をあげて ぼくがここに いるよの合図」	上野	颯太	さん(西 袋)
佳作	「元気に「おはよう」 朝のはじまり いい気もち」	大くぼ	れん	さん(本小野方)
佳作	「分別で 持続可能な 世の中に」	渋谷	真風	さん(南 野)

最優秀賞、優秀賞の標語については余目第四公民館の前に看板を掲示し、最優秀賞はタペストリーにして各集落に配布しております。また、成澤翔さんの標語はのぼり旗にして各集落であいさつ運動に役立てられています。



## \*編集後記\*

今年も稲種「亀ノ尾」選出者 阿部亀治記念 第3回和合の里フォトコンテストにたくさんのご応募をいただきました。和合の里の魅力を映し出した1枚はバラエティに富み、見ていてとてもワクワクしました。入賞作品展を11月19日(金)~12月3日(金)に余目第四公民館で開催します。和合の里の魅力あふれる1枚をぜひご覧ください。

・お詫びと訂正 本誌142号(令和3年9月15日発行)に掲載しました「はやぐおっきぐなれの」の堀井七碧ちゃんの記事に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。⑤の1行目 正しくは「長男」です。